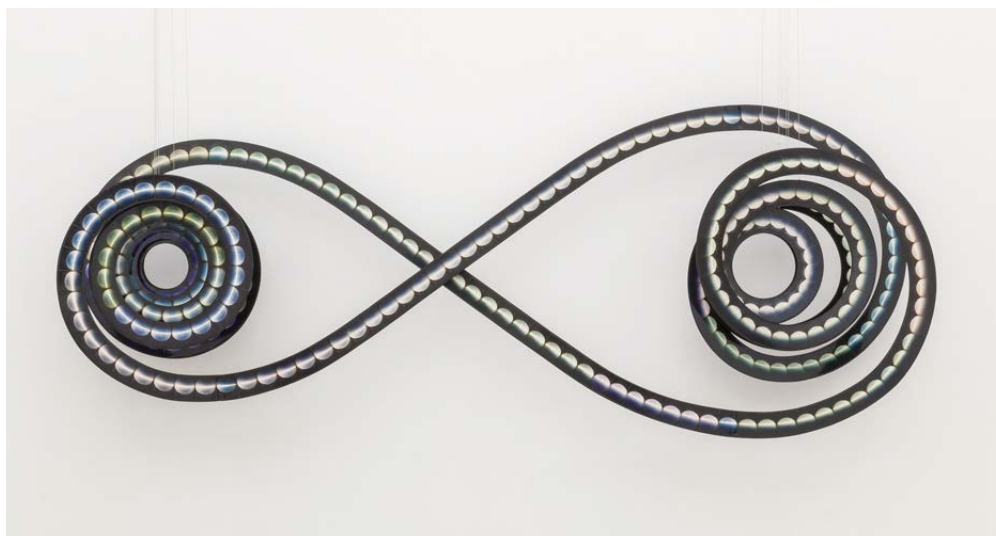


© ACG プレスリリース

－ 展覧会開催のご案内 －

野村仁「光と地の時間」 Hitoshi Nomura: Light and Earth Time



野村仁《北緯35度の太陽》1982-1987
*参考作品(撮影:豊永政史)

アートコートギャラリーでは、野村仁の活動初期にあたる1960年代-’80年代の代表作と、新作による個展「光と地の時間」を開催します。

野村仁は《Tardiology》(1969)において、重力と時間により巨大な段ボールが崩壊していく節目をカメラで捉えて以降、写真を主要な制作手法に用いてきました。自然の事象に対するリアクション(行為)の過程を記録し、移行する時間として提示可能なメディア=写真は、物体に時の経過を見るという独自の視点を持つ作家にとって、彫刻表現の新たな世界を拓いたと言えるでしょう。

本展は、写真を彫刻作品として制作した《Dryice》、月の満ち欠けで光の時を記述し天体の諸現象へとレンズを向ける転機となった《‘moon’score’》、一日の太陽運行の光跡を一年分繋ぎ「時間の環」の発見へと至る《北緯35度の太陽》、また、太古と宇宙の遙かな時空間に対する意識を生み育む「一枚の化石と銀河の光」シリーズの新作によって構成されます。

「自然は、時間とともに真の相(すがた)を現すのではないか」。野村はその想いと関心を深め、コンセプチュアルな自然との対話を一貫して続けています。そして、物体の運動や宇宙の秩序をカメラで捉える反復作業を通して、人間の意識を超えた普遍的な存在を私たちが知覚できるものへと置き換え作品化してきました。本展は、今も拡がりゆく野村仁の表現世界を俯瞰的に見る機会となります。また、作家とともに時間と空間へ思いを巡らせ、深宇宙を愉しみ、語りあう時となれば幸いです。

【展覧会概要】

観覧例：野村仁「光と地の時間」 Hitoshi Nomura: Light and Earth Time

会 期：2017年 5月13日 [土] - 6月24日 [土] *日・月 休廊

会 場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00 - 19:00 [土曜日 - 17:00]

◆ 関連イベント 2017年 5月20日 [土]

14:30 - 16:00 ... 対談 [野村仁 × 久門剛史(美術家)]

16:00 - 17:00 ... レセプション

*対談は要予約 (Email: info@artcourtgallery.com または Tel: 06-6354-5444) *参加費無料

◆ 出展作品(予定) 1960年代、’70年代、’80年代の代表作と、新作による展示構成。

《Dryice: 1969》 [1969 (1969.11.2) / 2017、写真10点組]

《‘moon’score’》(4点) [1977 (1977.1.1)、1978 (1978.1.12)、1979 (1979.1.1)、1980 (1980.1.1) / 2017]

《北緯35度の太陽:豊中》 [1986-1988 / 2017]

新作 (4点、「一枚の化石と銀河の光」シリーズ)



野村仁《Dryice》1969 (1969.10.19)
「第2回現代の造形(野外造形69)」鴨川公園、京都

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 大場] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース
— 展覧会開催のご案内 —

野村仁「光と地の時間」 Hitoshi Nomura: Light and Earth Time

◆ 出展作品について (作家による作品解説。出典:『見る 野村仁偶然と必然のフェノメナ』2006、赤々舎より)

Dryice

「自然は、時間とともに真の相(すがた)を現すのではないか」という想いを作品化した。常温で昇華するドライアイスを移動していき、その間に変化する重量と時間を順次記入しながら固定カメラで撮影。その作業の反復を行う。自然の秩序やエネルギーが生み出す形象を受け入れると、記録された偶然のかたちの連続のなかに、現象全体を貫通する必然の力のようなものが立ち現れてくることを実感できる。



《Dryice: 1969》1969 ([右]撮影:豊永政史)

‘moon’ score

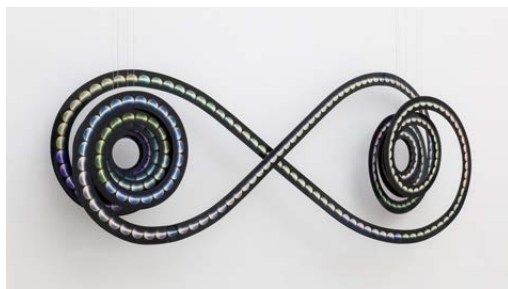
《‘moon’ score》は楽譜として使用可能な写真アルバムである。フィルムに5本の線を写し込み、そのフィルムで月の写真を撮るが、手振れのせいで位置が定まらず、月は5本の線の上を上下する。それを譜面として発表したものであり、現在も継続中である。アトランダムに捉えた月を音符と見立てて、実際に演奏すると、音楽が出現した。この試みは、我々が秩序だったスケールの大きな運動とともにあるのだと気づかせ、自然の事象あるいは宇宙と時間との関係を、以後の作品で展開する契機となった。



《‘moon’ score》1979 (1979.1.1)

北緯35度の太陽

《北緯35度の太陽》は、北緯35度の地で獲得した一年間の太陽の軌跡である。《曲った大気中の自転》(1980)として得られた写真を一年分、一日一日の曲線が示すとおりに繋げると、無限大の記号を示す螺旋形が出現した。循環する季節を経験している我々の実感を彷彿とさせる「時間の環」の発見。「めぐる時間」の形象化と言えるであろう。これら崇高でダイナミックな動きを身近に感じることは、日々繰り返される見慣れた光景を、かけがえのない自然そのものの「現れ」として捉えることである。



《北緯35度の太陽》1982-1987 *参考作品 (撮影:豊永政史)

一枝の化石と銀河の光

1億5千万年前、青々と繁っていたジュラ紀の植物が化石として、今、発見される。1億5千万光年かなたの距離にある銀河の光が、今、キャッチされる。植物が石となる遥かな時間、その同一時間に、光が宇宙空間を直進する距離を対応してみることによって、悠久の時間と宇宙空間の広大なスケールを直観的にイメージしてみたいと思う。



《Plagiophyllum & NGC 2207+IC 2163(1.63億光年)》
2002-2006 *参考作品 (撮影:豊永政史)

Courtesy of NAOJ

◎ ACG プレスリリース

野村仁 Hitoshi Nomura

- 1945 兵庫県に生まれる
1967 京都市立美術大学卒業
1969 京都市立美術大学専攻科修了

【初期の主な活動】

- 1969 3月、「美大作品展」(京都市美術館)にて、段ボールが自重によって崩れていく作品《Tardiology》を発表。
10月、「第2回現代の造形〈野外造形'69〉」(鴨川公園、京都)に、ドライアイスが昇華する過程を提示する作品《Dryice》を出品。
1970 3月、「京都アンデパンダン展」(京都市美術館)に、写真作品《Dryice: 1969》と《道路上の日時》を出品。
5月、中原佑介が総コミッショナーをつとめた「第10回日本国際美術展—人間と物質」(東京都美術館)に参加。
1972 1月、《カメラを手に持ち腕を回す: 人物、風景》《重心の移動》を撮る。(16mm フィルム)
3月、16mmムービーカメラを使って「見るもの全てを写したい」と思い、《photobook又は視覚のブラウン運動》の撮影を開始。(—1982年2月)
1975 《age: M→F》写真作品を制作。(’78ビデオ作品を制作)
電線の向こうに見える月が音符のように見えたことがきっかけで、《‘moon’ score》の撮影を開始。
以後、『月』‘moon’ score、『星』‘pleiades’ score(’78-)、『鳥』‘birds’ score(’83-)、『鶴』‘Grus’ score(’04-)を開始。
1978 10月、太陽を対象とした最初の作品を制作。
12月、《The Earth Rotation》(自転する地球)の撮影を開始。(—1979年11月)
1979 11月、LP《‘moon’ score》(h v /001)をリリース。
1980 3月、魚眼レンズを用いて太陽の一日の軌跡を記録した《曲がった大気中の自転》の撮影を開始。(—1988年12月)
1982 3月、「第5回インド・トリエンナーレ」(ニューデリー)に参加後、釈迦ゆかりの地を巡礼する。
《北緯35度の太陽》の写真撮影を開始。(完成は1987年)

【主な個展】

- 1970 「昇華する沃素と時刻表」ギャラリー16、京都
1972 「重心の移動」ギャラリー16、京都
1977 「‘moon’ score & 日本列島」ギャラリー16、京都
1978 「‘moon’ score & 8 discs」コバヤシ画廊、東京
1987 「近作展2・野村仁 Spin & Gravity」国立国際美術館、大阪
1989 「Cosmo Chronography」INAX ギャラリー、東京
1991 「Cosmo Chronography & Phonography」ギャラリーKURANUKI、大阪
1993 「CRYO PHENOMENA」アートギャラリー・アルティアム、福岡
1994 「作品集『Time・Space』」出版記念展 ギャラリーKURANUKI、大阪
1995 「CHANGE over TIME」スパイラルガーデン、東京
「CHRONOSCORE」東京都写真美術館、東京
1996 「CHRONON & PROTOMORPH」中京大学C・スクエア、名古屋
「Cosmic Sensibility が作用して・・・」ギャラリーKURANUKI、大阪
「Soft Landing Meteor & DNA」ギャラリーGAN、東京
1998 「One with the Cosmos」ギャラリーKURANUKI、大阪
1999 「Mission to America & Jurassic Giant Tree in Tokyo」ギャラリーGAN、東京
2000 「New Vision Navigator—ソーラーカーによるアメリカ大陸横断記録—」中京大学C・スクエア、名古屋／京都芸術センター、京都
「野村仁—生命の起源: 宇宙・太陽・DNA—」水戸芸術館現代美術センター、水戸
2001 「野村仁—移行／反照—」豊田市美術館、豊田
2004 「新作展—chroma & chromatic—」アートコートギャラリー、大阪
2006 「Hitoshi Nomura—An Introduction, Photo works 1975-92—」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク
「野村仁—Cosmo—Arbor—」アートコートギャラリー、大阪
「野村仁『見る』出版を記念して」アートコートギャラリー(*仮スペース)、大阪
2007 「Hitoshi Nomura: Chrono & Chroma」アートコートギャラリー、大阪
2008 「Hitoshi Nomura: Gravitational Shape & Flavor—The Sun, Meteorites and The Body—」アートコートギャラリー、大阪
2009 「野村仁: 変化する相—時・場・身体」新国立美術館、東京
「野村仁退任記念展: View From Space, From Here On...」アートコートギャラリー、大阪
2010 「Hitoshi Nomura: Marking Time」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク
2012 「Discover Hitoshi Nomura In Hong Kong」Gallery 27、香港
2013 「野村仁: 身体／知覚 又は 私を「私」とおもう私」アートコートギャラリー、大阪
2015 「Hitoshi Nomura: Contingency and Necessity [野村仁: 偶然と必然]」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク

© ACG プレスリリース

野村仁 Hitoshi Nomura

【主なグループ展】

- 1969 「第2回現代の造形〈野外造形'69〉」鴨川公園、京都
 1970 「第10回日本国際美術展—人間と物質」東京都美術館、東京
 1975 「第9回パリ青年ビエンナーレ」国立近代美術館／パリ市立近代美術館、パリ
 1980 「アート・ナウ'80」兵庫県立近代美術館、神戸
 1982 「第5回インド・トリエンナーレ」ニューデリー
 1983 「現代美術における写真—1970年代の美術を中心として」東京国立近代美術館、東京
 1988 「野村仁+村田千秋 2つの個展—温度は基本か」ABCギャラリー、大阪
 「動きの表現」埼玉県立近代美術館、埼玉
 1990 「移行するイメージ—1980年代の映像表現」京都国立近代美術館、京都／東京国立近代美術館、東京
 「JAPANISCHE KUNST DER 80ER JAHRE」クンストフェライン／フランクフルト／ウィーン近代美術館 他
 1991 「線の表現—眼と手のゆくえ」埼玉県立近代美術館、埼玉
 「A Cabinet of Signs」Tate Gallery、リバプール／Whitechapel Art Gallery、ロンドン 他
 1992 「ビデオ—新たな世界—そのメディアの可能性」O美術館、東京
 「第9回シドニー・ビエンナーレ—The Boundary Rider」Art Gallery of New South Wales、シドニー
 1993 「BRED A FOTOGRAFICA '93」De Beyond Breda、ブレダ、オランダ
 「Time & Motion」ICP、ニューヨーク
 1994 「時間／美術—20世紀美術における時間の表現—」滋賀県立近代美術館、滋賀
 「空間・時間・記憶—Photography and Beyond in Japan—」原美術館、東京
 1995 「1970年 物質と知覚：もの派と根源を問う作家たち」岐阜県美術館、岐阜 他
 「戦後文化の軌跡1945-1995」目黒区美術館、東京 他
 1996 「Photography and Beyond in Japan—Space, Time and Memory」ロサンゼルスカウンティ美術館、カリフォルニア 他
 1997 「重力—戦後美術の座標軸」国立国際美術館、吹田
 「日本の現代美術—思考と形象」豊田市美術館、豊田
 1998 「静けさのなかから—星の贈りもの」和歌山県立近代美術館、和歌山
 1999 「ART1999 CHICAGO」Festival Hall, Navy Pier, シカゴ
 「第8回ふくいビエンナーレ—身体と記憶—」福井市美術館、福井
 2000 「宇宙のかけら・時のかけら展」新潟市美術館、新潟
 2002 「未完の世紀：20世紀がのこすもの」東京国立近代美術館、東京
 2003 「The History of Japanese Photography」The Museum of Fine Art, Houston、ヒューストン 他
 「盗まれた自然」川村記念美術館、佐倉
 2004 「痕跡—戦後美術における身体と思考—」京都国立近代美術館、京都／東京国立近代美術館、東京
 2005 「風景遊歩」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、丸亀
 「アート&テクノロジーの過去と未来」ICC、東京
 「もの派—再考」国立国際美術館、大阪
 2006 「美術館は白亜紀の夢を見る」埼玉県立近代美術館、埼玉
 2007 「非芸術反芸術芸術」Getty Research Institute、ロサンゼルス
 「宇宙御絵図」豊田市美術館、豊田
 2009 「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ—」東京国立近代美術館、東京
 「Enokura, Nomura, Takamatsu: Photographs 1968-1979」McCaffrey Fine Art、ニューヨーク
 「医学と芸術展—生命と愛の未来を探る：ダ・ヴィンチ、応挙、デミアン・ハースト」森美術館、東京
 「First Passage」アートコートギャラリー、大阪
 2011 「Hitoshi Nomura, Sigmar Polke, Yukinori Yanagi: Works in Progress」McCaffrey Fine Art、ニューヨーク
 2013 「Re: Quest —1970年代以降の日本現代美術」ソウル大学校美術館、ソウル
 2015 「Re: play 1972/2015—『映像表現'72』展、再演」東京国立近代美術館、東京
 2016 「ART1 2016: Stepping into Fresh Snow」アートコートギャラリー、大阪
 2016-17 「宇宙と芸術展 かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ」森美術館、東京／ArtScience Museum、シンガポール

【主な作品収蔵先】

北九州市立美術館／岐阜県美術館／京都国立近代美術館／京都市美術館／国立国際美術館／埼玉県立近代美術館／滋賀県立近代美術館／
 千葉市美術館／東京国立近代美術館／栃木県立近代美術館／姫路市立美術館／兵庫県立美術館／広島市現代美術館／目黒区美術館／
 和歌山県立近代美術館／Dallas Museum of Art／Getty Research Institute／International Center of Photography／Musée d'Art Moderne
 Saint-Étienne／Museum of Modern Art, New York／San Francisco Museum of Modern Art